

# フォレストニュース

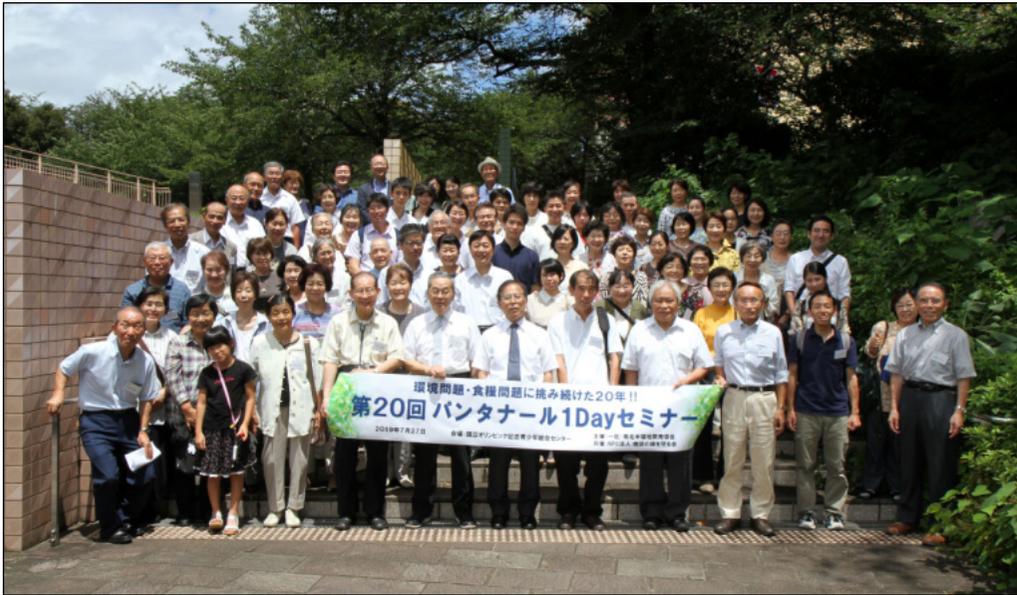
植林が地球を救う

令和1年(2019)8月10日

No. 140

発行 高津啓洋

## 決意の夏季セミナー



7月27日(土)、午前10時から午後4時すぎまで、「第20回パンタナール1Dayセミナー」が代々木オリンピック青少年センター センター棟401号室(定員:120名)で、開かれました。

東海地方に台風が接近する中天候が心配されましたが、太陽が燦爛と降り注ぐ真夏の中でのセミナーとなりました。

参加人数は90名ほどで、植樹

や環境問題に関心を持った方々が多数参加していました。

セミナーは、12年間青年奉仕隊を引率した、柴邦彦沼先生から、レダ開拓の様子が話されました。「レダ開拓はまさに地獄のようであった。毒蜘蛛、蚊の大群、灼熱の暑さの開拓でした」が、今日まで20年間歩み続けてきたこと、またその中で、青年ボランティアを継続してこれたことなどを話し



南米タガメも巨大です

ていました。

また現職のパラグアイ大統領が、レダに記念の植樹をしています。等の紹介がありました。

講義の後、緑に囲まれた中での写真撮影をし、その後青少年センター内の食堂で昼食をとりました。

午後は12時40分から、理事長の高津啓洋先生による講義が行われました。今日、森の消滅・地球の温暖化が問題となる中、地球の緑を守る会のパラグアイでの植樹活動への取り組みと共に、南米パンタナールに生息する様々な動物(タガメ、ワニ、ピラニア、ガラガラ蛇のしっぽ等)の標本が紹介されました。また来年は緑の会として管理のために理事長自身がレダに行く決意を表明されました。

続いて青年のボランティアで1年間レダに滞在した米田君から、レダでの各プロジェクトの内容が写真と共に紹介されました。

その後、講師を囲んで分科会が行われ、最後に参加者の中から2人の感想・決意が述べられました。

自衛官として世界を巡ってきた青年は、先輩たちの歩みに感動し、レダプロジェクトに希望を感じていました。

ある夫人から、地球の緑を守る会の活動に刺激を受け、ぜひ現地に植樹もしたいしレダに行ってみたいとの希望を述べておられました。(報告:後藤記)

## 青年引率は三石さん



今年の、パラグアイへの青年奉仕隊は米国在住の三石昭治

さんが引率していきます。

三石さんは長く南米に暮らして、スペイン語と英語が堪能で、レダ訪問は10数年ぶりということで、大変に期待を寄せているとのこと。写真は、三石さんと高津理事長がアスンシオンでの英雄廟でのスナップ。(2006年2月9日)